



SHINKAI NEWS

# 日曜

あけぼの

発行責任者

新開昌彦後援会

福岡市早良区曙2丁目1-35

福岡県議会議員 新開 昌彦

Vol. 4 平成12年4月2日発行

私の当選した日は、昨年(平成11年)の4月2日です。今日で満一年です。「大衆とともに」の原点を心に新たな気持ちで頑張ります。

# 県議会レポート

## 笑顔を作る介護

私は、宮城県の「社会福祉法人 せんだんの杜」を視察して来ました。

案内を受け。余命幾ばくもなという老人四人に挨拶しました。

大変血色もよく笑顔が素晴らしい老人なのです。

驚いて理由を聞きました。

「私達の仕事は、あの方達の笑顔を作ることなんです。」

「痴呆が進むと、その老人が、生涯のうちで一番華やかな時代に戻るんです。」



「せんだんの杜」の事務局がある棟

「しかし、痴呆性の老人は、自分の意思をうまく伝えられませんが、だから、イライラしたり、物を投げたりするんです。」

## 地域と笑顔

新開 昌彦県議は、平成12年2月議会で、介護の現場等を視察し、**地域と笑顔**というテーマで質問しました。

今後は、自治体の知恵比べです

「介護する側が老人一人ひとりの状態をよく観察していると、分かってきます。」「ほめてあげたり、一緒に笑ったり、散歩したりしてその人にあった受け答えをしていくと老人は、とてもいい笑顔になります。」

### 宅老所等の育成について

介護の専門家が、地域に密着し老人と生活を工夫しながら介護を実施している宅老所等の育成に力を注ぐべきだ。

**知事** 自主性を重んじ必要に応じて情報提供しながら介護サービスの参入指導に努めます。

**住み慣れたところが最高**

高齢者福祉は「自宅か施設か」に限定され「地域」という視点が欠けている。滋賀県や、富山県、栃木県等は、高齢者も障害者も子どもも地域と一緒に暮らす施策が実施されている。知事は、どう思うか。

**知事** 福岡も工夫しているが、不十分という指摘。研究します。

**NPOやボランティアの育成**

宮城県では、地域に目を向けています。地域にネットワークを持つボランティアやNPOを育成する条例を制定し、行政・企業との関係も対等として様々な施策を行っている。本県ではどう考えるか。

**知事** 来年度にボランティア総合センターをつくり、様々な支援体制を実施します。運営も自主運営を目指します。

### 家賃支払いに郵便局が使えない

公共料金は、コンビニで支払える時代。県営住宅の家賃支払いに郵便局が使えない理由は、県側のコストの問題。しかし、口座振替は、銀行も郵便局も同じ10円。住民サービスに徹するべきだ。なぜ、できないか。

**知事** 窓口収納手数料との均衡をどうするかが課題。今後、検討します。

**ベンチャー企業は、どう育成する**

昨年十二月福岡大学で学生の「起業」アイデアのコンテストが行われグランプリを取ったのは、地域の高齢者などの力を利用した子ども預かり事業。本県のベンチャー企業の発掘と育成についてどう考えるか。

**知事** フクオカベンチャーマーケットなど多様な支援を行う。活気ある福岡を目指します。

**パソコン習得にボランティアの力を**

昨年九月の私の提案で、盲、養、聾学校にパソコンのインストラクターが派遣されているが、平成十三年度の雇用対策事業終了後は、地域のボランティアやNPOの力を借りて委託してはどうか。

**教育長** ボランティアなどの協力が得られるよう方策の検討をします。

# UNHCRから感謝



青年局の代表と神崎武法代表を囲み懇談

昨年十二月福岡県下、三十九会場で第八回難民救援募金が実施されました。小雪が舞い散る中、六百人の男女青年党員が、募金活動に参加し三百七万円の寄付が集まりました。

新開昌彦公明党福岡県本部青年局長(福岡県議)は、一月二十三日東京の国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)を青年局の代表とともに訪れました。カシディス・ルチャナコン日本・

韓国代表に募金を寄託しました。木庭健太郎参院議員も駆けつけ、福岡県の青年局の活動を伝えました。

三月二日、公明党福岡県青年局に対して、感謝状が贈られました。これは今回で三回目。別紙には、インドネシアのチモールでの国連の難民救済活動の状況がつつられ、この募金が、難民のために毛布や、住む家等に使われているということが報告されていました。

新開局長等は、難民募金

寄託に先立って、神崎武法公明党代表に会い、「党の平和活動は、国連中心主義であること」を再確認し、カシディス代表との会談の席上神崎代表のメッセージとして伝言しました。



国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) にてカシディス・ルチャナコン日本代表に募金を寄託 - 木庭参院議員と -

## People to People to People (人から人へ)

国連難民高等弁務官事務所の日本代表に青年局の皆さんとともに会いし、難民募金を寄託しました。【上の写真です】

生まれて初めて、自分の言葉を通訳してもらいました。青年局の皆さんの思いを一生懸命伝えました。その中で、「私たちの平和の活動は、一人が一人へそして一人にと確実に伝えていくことです。」と申しました。

その通訳の言葉が、**People to People to People** でした。

### 新開 昌彦のプロフィール

昭和 32 年 6 月 12 日生 42 才 血液型：O 型

#### 略歴

|       |                  |       |                   |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 45/ 3 | 市立西新小学校卒業        | 56/ 3 | 津田産業(株)入社         |
| 48/ 3 | 市立百道中学校卒業        | 58/ 7 | 津田産業(株)退社         |
| 51/ 3 | 私立大濠高等学校卒業       | 58/ 8 | 神崎武法秘書            |
| 56/ 3 | 私立創価大学経営学部経営学科卒業 | 11/ 4 | <b>福岡県議会議員初当選</b> |

#### 家族

妻 映子  
美智子(百道中学新 1 年) 亮(西新小学校新 5 年)  
美穂(西新小学校新 2 年) 隆(幼稚園)

